

## 先端的プロジェクト型研究・研究報告 1

**課題名** 東北大学の教育・研究体制の分析

**研究代表者名** 荒井克弘 (教育政策科学講座教授; 教育計画論)

### 研究組織 (研究分担者等)

宮腰英一 (教育政策科学講座教授)  
大桃敏行 ( 同 上 )  
秋永雄一 ( 同 上 )  
橋本鉦市 (教育政策科学講座助教授)  
小川佳万 ( 同 上 )

### 研究目的と方法

東北大学の学問的伝統に着目し、大学史、知識社会学、組織論等のアプローチを含め、さまざまな観点から本学の学問的風土を明らかにする。

### 研究の経過

1. 平成 14 年度に東北大学・大学研究基盤経費の助成のもとに「東北大学の研究—フィールドワールド「学問の伝統」—」(菊池武剋代表) のインタビューを実施した。本年度はその原稿を起こし、校正のうえ報告書資料としてとりまとめた。インタビューの内容は、本学においてキーパーソンと目される教官を訪ね、当該分野あるいは当該研究室において伝統的にみられる学問観、研究の方法、研究組織のあり方等を尋ねたものである。同じ大学でありながら、分野、沿革によって教育・研究のスタイルは大きく異なり、われわれの足下に多くの情報が埋まっていることを再発見させてくれる。

- ① 星宮 望 工学研究科教授 (前副総長)
- ② 中村慶久 電気通信研究所教授 (研究所長)
- ③ 柳沢輝行 医学研究科教授

2. 平成 14 年度東北大学・大学研究基盤経費のもとに進めていた本学年史関係資料のデータ・ベース化、学務部厚生課所蔵の卒業生就職関係資料のデータ・ベース化については、資料の目録、データ・ベースの利用マニュアルを報告書『東北大学の研究』に収め、周知を図ることとした。

## 研究の成果

本研究の趣旨は東北大学の「学問的風土」の特質を探り、本学のこれからの教育・研究の改善、中・長期の計画に役立てたいとするものである。そのため、多様な観点からのアプローチを第1と考え、プロジェクトの開始にあたってはあえて統一的な手法、枠組みを採ることはしなかった。本プロジェクトに参加した研究者の専門性、個性にしたがってテーマを提案し、それぞれ独自の方法で掘り下げてもらうことにした。作業の結果はいまのところ一見まとまりがつかぬ風に見えるが、お読みいただければ、随所に今後の研究の萌芽と目される事実が浮かび上がっていることがお分かりいただけると思う。今回の報告は文字通り中間報告であり、漸く予備的段階にきたというにすぎないが、報告書のとりまとめを機に、「東北大学の研究」プロジェクトの次なる段階への飛躍を期すこととしたい。

なお、上記の報告書に盛り込まれた内容は以下の4つ調査及び作業の結果である。

1. 東北大学の研究・教育体制に関するインタビュー（記録）
2. 東北大学関係者の留学先追跡調査報告（外国現地調査）
3. 東北大学教育学研究科年史関係資料のデータ・ベース化（目録）
4. 東北大学の卒業生就職状況調査（昭和57～平成13年度）のデータ・ベース化（利用マニュアル）

報告書の作成にあたっては、橋本鉦市助教授にご尽力をいただいた。また、インタビューの原稿化、原稿校正には教育学研究科博士前期課程1年の京須希美子さんに多大なご協力をいただいた、記して感謝の意を表したい。

研究代表 荒井克弘

付記 なお、星宮教授のインタビュー記録については、報告書のとりまとめ時期の関係で、残念ながら収録が適わず、次ぎの機会にさせていただくことになった。お許しを戴きたい。